東日本大震災復興支援

大阪教会
管区

被災地報告会

日時：2018年3月17日(土)
13：00～15：30

会場：サクラ ファミリア４階

カリタス大船渡ベース
報告

復興の進む大船渡市の中心部

2018年3月14日撮影

震災から７年が経過し、ハード面の復旧復興が確実に進む中、各種支援団体やボランティアが急激に減少してきています。被災した方々が心穏やかな生活を取り戻す「本当の意味での復興」までには、まだまだ時間を要し、当ベースではこれまでの活動を継続して、被災地の方々に寄り添い続けていく必要があると思っています。

《 最近の活動の報告 》

○コミュニティ形成支援

・仮設住宅集会所訪問
・災害公営住宅集会所訪問
（お茶会・昼食会・映画上映会・メンズサロン・レクリエーション・たこ焼き・お好み焼き・ちぎり絵・リース作り　等）
・買物送迎・敬老会送迎

仮設住宅の入居者が減り、支援員のシステムが変わったため、仮設住宅でのサロン活動は難しくなり、この１年で災害公営住宅でのサロン活動が中心になってきています。仮設住宅から災害公営住宅に移り住んでも、慣れない生活に不安や孤独を感じている方が多くいらっしゃいます。引きこもりや孤立を防ぎ、住人同士の交流を促すための支援をし続けてきました。各種支援団体の撤退に伴い、被災した方々を訪問する団体が減少してきており、カリタス大船渡ベースが訪問すると、非常に歓迎されます。災害公営住宅の自治会組織が出来上がっていくにつれ、自治会活動を円滑に行えるように住民同士がお互いに知り合うきっかけとなるサロン活動の要望が増えてきています。

買物送迎も利用者が減少してきていますが、利用している方々からは継続してほしいとの強い要望があり、今後も継続していきます。

○見守り活動

・在宅被災者訪問
・みなし仮設住宅訪問
・高齢者、独居者訪問
・災害公営住宅入居者訪問　等

津波の被害を受け、自宅を修理して住んでいる方々の中にも経済状態や健康状態が良くない方がいて、支援し続けてきました。少子高齢化、核家族化が進み、様々な形での支援が必要となってきています。ベースとして支援対象を見極めることは非常に難しいですが、ケース・バイ・ケースで対応していかなければなりません。訪問時には安否の確認と支援物資の提供を行なってきました。震災直後から継続して定期的に訪問している高齢者・独居者のお宅では、1時間ほどお茶のみ話をするところもあります。訪問すると、体調を崩していたり、一日中誰とも話していなかったという方もいて、今後も継続して見守っていく必要があります。

○ベース企画のイベント

お茶っこ、映画上映会、手芸サロン、折り紙サロン、抹茶サロン、歌っこのつどい、ボッチャを楽しむ会、クリスマス会、バレンタインデーイベント、イースターイベント等、多彩なサロン活動を開催しています。ポスターやチラシ、月間のスケジュール表を作成して告知し、地域の方々の交流の場として定着してきています。参加者にはいずれのイベントも好評で、口コミでも広がり、参加人数が次第に増えてきています。被災地におけるこのようなイベントは、コミュニティ形成に非常に有効であり、今後も継続していきます。1月から月に1回、「英語でティータイム」というサロン活動を始めました。

○子ども支援

大船渡市内で子どもの支援を行っている団体は少なく、当ベースでは今後も、子どもに対する支援を活動の大きな柱の一つにしていきます。週１回、土曜日の午前中に子どもサロンを開催し、子どもたちにベースを開放してきましたが、あまり参加者は多くありませんでした。今後は「ママサロン」という形に発展させ、子育て中の若い母親たちが集える場にしていきたいと思っています。

○外国人支援

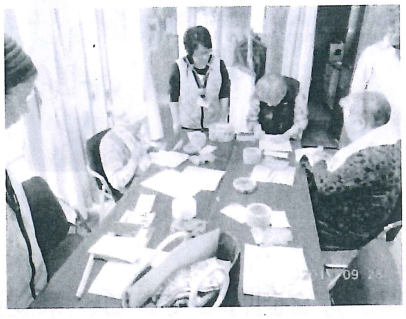
被災地の外国人に対する支援は市内では当ベースのみが行っています。大船渡教会の外国出身の信者たちへの支援から始めてきました。母国を離れ、日本で、気仙地域で安心して快適に生活することが出来るよう、支援をしてきました。子供たちへの学習支援、親たちへの日本語補助、困りごと相談、また、カトリック信者の子供たちへの初聖体の準備の支援も行いました。今後も継続して支援していきます

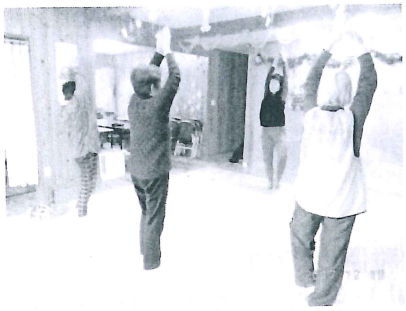
○個人からの活動依頼

高齢者世帯や独居世帯の様々な作業の補助を行い、非常に感謝されています。ボランティアの減少から可能な作業に限りがあり、支援するかどうかはケースごとに十分な調査を行ない、またカリタスベースが請け負うのに適した活動かどうかをスタッフ会議で検討し判断して行なっています。今後も可能な限り続けていきたいと思います。

○ベースを会場にしてのカルチャー教室

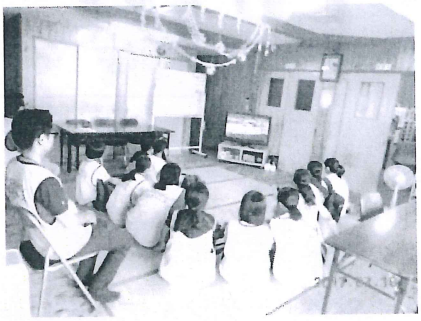
ベースの建っている地域は被災した地域であり、公民館が流失してしまっています。またこの地域にはもともとカルチャーセンターがありませんでした。その中でベースは公民館として利用され、またボランティアを講師としてちぎり絵教室、陶芸教室、ヨガ教室等が開催されています。選挙の投票所としても利用されています。





○被災地見学

ボランティアに来た方々に震災時の様子をDVDで視聴していただき、その後、復興の進む被災地、まだまだ復興とは程遠い被災地を見学して回っています。現状を知っていただき、風化していく記憶を呼び戻し、今後各地で起こり得る災害に備えてもらうために非常に有意義な活動であり、今後も継続していきます。



○他団体との協力

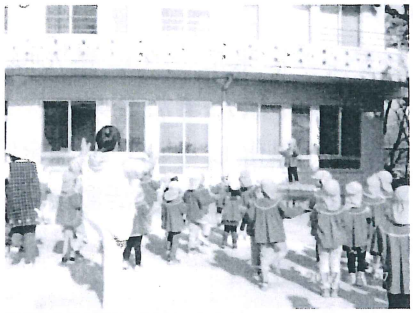
「まちの保健室」による「元気度アップ教室」（健康体操）や「社会福祉協議会」による「おでかけ広場」（子育て支援）へ会場を提供し、「介護老人保健施設　松原苑」への介護補助、「居場所ハウス」へのイベント補助、地元の復興した商店街へのイベント補助、地域のお祭りの手伝いなどを行っています。

○カトリック大船渡教会との連携

ベーススタッフのシスターやボランティアが、ミサへの参加の他に教会行事の手伝いを行っています。降誕祭や復活祭のミサ後のパーティの手伝い、バザーの手伝い等々。地元の信者との交流もあり、関係は非常に良好です。

○海の星幼稚園への協力

カトリック大船渡教会に隣接する海の星幼稚園が月２回行っている、未就園児保育の「ほしっこクラブ」へボランティアやスタッフを派遣し、保育補助を行っています。



○広報活動

・「大船渡だより」の発行（毎月１日）
・ブログの更新
・月間のイベントスケジュール表の作成

被災地やベースの活動の様子を発信し、支援してくださっている方々への活動報告や情報提供を行っています。また地域の方々に向けて、月間のイベントスケジュール表を作成し、ポスティングを行なっています。

カリタス米川ベース
報告

復興の進む南三陸町
2017年1月13日撮影

カリタス米川ベース報告

2018/3/17

2017 年度の状況

大阪管区の方針である地域雇用を促進し温かい環境が作られてきた。活動先でもボランティアからも喜ばれている。また新しく入った地元の方たちも楽しみながら仕事をしてくれている。漁業や農業などは学校から派遣されてくる学生達にとっては新鮮な体験になっており、活動先の漁師たちはいつも嬉しそうだ。障がい児見守り施設にお手伝いに行くスタッフたちは子供たちがなつき始めてとても良い関係を築いている。

団体名称「カリタス南三陸ベース」(2018 年度より)

「カリタス米川ベース」は殉教地に拠点を設けた為、南三陸の被災者たちにはキリスト教の団体として安心して貰えたが、日本中の方たちにはどこが活動場所なのか分かりづらかった。そこで仙台教区からのソフトランディングのタイミングで名称を変更し活動場所を分かり易くする。南三陸では「カリタスさん」で認識されているので特に問題はない。

活動継続の目的

- 東日本大震災後、被災地に寄り添い様々な活動を通して生まれた多くの縁は「まちづくり」へと繋がっていった。この縁を財産とし、南三陸という小さな町で「まちづくり体験」を通し、ボランティアたちが各地に戻ってからも「まちづくり」に興味を持つきっかけとなる場所を創っていく。
- 震災を乗り越え、強く生きている地域の方達から、命の大切さや人間の強さを学ぶ。
- 漁業や農業支援を通して「食」への感謝を学ぶ。
- 人の為に何か奉仕したいというボランティアの人達を、人種や宗教を問わず迎え入れる場所を創り続ける事が本質的な宣教と捉え「教会づくり」をしていく。

拠点について

現状は旧米川公民館を登米市から 2018 年度末まで無償貸借契約を結んでいる。震災から 10 年の 2020 年度末まで契約延長も役場に確認済。土地も建物も広く使い勝手が良い。南三陸まで距離はあるが、殉教地も近く来客やボランティアを巡礼に案内する事もありカリタスと名乗る事が自然であった。被災者の引越しが 2019 年度まで続く中、南三陸町で拠点も検討するか、米川で契約継続か地域の方たちや関係者とも協議していく。

ベーススタッフ 現地スタッフで構成していく。地域関係以外からの雇用は要検討。

ボランティア延べ人数 **17,092 名 (2017 年 12 月末まで)**

現在の主な活動

・産業支援（漁業・農業・林業、モアイ作り、みちのく潮風トレイル整備等）
・地域福祉（仮設住宅お茶っこ傾聴/子ども達の見守り・戸別訪問、障がい児見守り）
・イベント（草木染体験、福祉祭りなど）・震災遺構等案内（防災・減災教育）

2018年度の新しい活動予定

・米作りプロジェクト

今後、地域雇用が基盤となり活動を展開していくにあたり、地域資源を活かした活動を検討中。ベース近辺の休耕田で米作りをし、収穫祭（新米で食事を共にするイベント）を被災地で行い地域コミュニティ再生事業と結びつける。また第一次産業者に近づくことで、より被災地の方達に寄り添っていく。ベース食材としても活用。購入希望者には販売も視野に入れ、経費削減も心掛ける。戸別訪問の際にもお裾分けしたい。

・紙すき体験　ハガキを作り草木染をして季節状のやりとりのキッカケづくり。
・みちのく潮風トレイル&ボランティア体験
・荒島パーク（復旧した海水浴場に隣接している公園）にモアイ設置予定。
・大船渡ベース～南三陸ベースボランティアツアー

2018年度の課題

・子供たちの遊び場づくり

仮設で遊んでいる子どもたちが、今後仮設が無くなった時に自己肯定できる居場所があるようにしなければならないが、まだ解決策が見つからない。寄り添いながら見守り子ども達の声に耳を傾けていきたい。

・2020年度以降の組織の運営について

地域の中で必要とされる事業を継続していけるかどうか活動を振り返り、関わりのある方達とも相談させて頂きながら検討していく。

南三陸町の状況

防潮堤や漁港、河川工事、新しい国道45号、三陸自動車道や震災復興祈念公園などの整備は町の復興計画である10年間は最低続く見通し。沿岸部は嵩上げ工事が終わった所には復興商店街以外にも少しずつ建物が増えてきた。役場の新庁舎が山を切り土した高台に2017年9月に開庁し、地方卸売市場の整備も完了し志津川漁港の近くに南三陸海岸ICが開通し歌津ICまで繋がった。スーパーやホームセンターも7月にオープンし住民は日常生活を少しずつ取り戻している。

南三陸町内の応急仮設住宅は高台移転に伴い取り壊しが各地区で進行中。集約されていく仮設に残される人たちへの対応も考えていかなければならない。新たなコミュニティ形成の大切な時期が続き、高台移転され孤独でいる方達の自死・孤独死・生活不活発病などが戸別訪問で行く先々で心配になる状況である。引っ越しが続く地区はこれから自治会が作られていき、集会所の建設は一番最後になるので地域コミュニティづくりにはまだ時間がかかりそうだ。南三陸町は震災により人口流出が加速し震災後約30%減少。国が消滅可能都市と指定している中に南三陸町も含まれている。今後も地域の魅力を活かし交流人口を増やさなければ町の未来は見えてこない。また待ちきれず自主再建された方や町外へ引っ越された方達もいる中、災害公営住宅は空き家が増えた為、被災者以外への入居募集も始め移住者増加を図っている。